

第53回水の都ひろしま推進協議会【議事録（要旨）】

- I 日 時 令和5年（2023年）12月1日（金）14：30～15：40
II 場 所 広島市男女共同参画推進センター 4階 研修室1（ゆいぽーと）
III 出席委員 別紙のとおり
IV 議事概要

審議事項

第3次「水の都ひろしま」推進計画の策定について

《正本委員》

計画案の7ページに「水の都ひろしま」構想の3つの柱の中の「つかう 市民による水辺の活用」とあるが、観光客等の利用がある中で市民だけで良いのかも一度整理した方が良いと思う。また、広島の水辺空間は全国的に見ても素晴らしいと思っており、特に河岸緑地の連続性が素晴らしいと思っているので、広島と言えばイメージされるものになってほしいと思う。

《西名会長》

最初の話は市民だけでなく、もう少し多くの主体がいるのではないかとということだと思いが、後半の話は、具体的にどこにどのように反映させるイメージなのか。

《正本委員》

計画案の11ページで「花と緑による修景の実施など美しい水辺空間の創出」では、プランターなど草花の記載があるが、国土交通省により高潮対策で護岸改修が進められており、護岸から5m以内は今後木を植えないようになっていて、将来的には減っていくと認識している。このことは協議会の範疇を超えているかもしれないが、緑の連続性に努めていただきたいと思う。

《西名会長》

プランターの設置等だけでなく、もっと大きな部分で連続性を意識した方が良いということだが、具体的にどのように計画に盛り込むのかということは難しいかもしれない。ただし、このような意識を持つことは大切である。

《市川委員》

「水の都ひろしま」構想の3つの柱は「つかう」、「つくる」、「つなぐ」の順であるが、推進計画では順序を入れ替えている。こだわりがある訳ではないが、もし順番を変えるのであれば、「つくる」、「つかう」、「つなぐ」の方が自然ではないか。この順番について、以前議論したような気がするが、どうか。

《事務局》

計画案7ページの「水の都ひろしま」構想の3つの柱については、平成15年に策定済みのものを掲載しているので、記載内容の変更はできない。次に順番については、前回の計画改定の際に順番の変更を行っており、議論があったと思う。

《西名会長》

前回の改定時の記録が何かあれば参考に紹介してほしい。

《市川委員》

ネットワークは「つなぐ」ものだが、「つなぐ」ネットワークを「つくる」という意味で「つかう」の前にしているのかもしれない。この件については、事務局にお任せする。

続いて、24、25ページの情報発信において、様々なロゴマークがあり、さらに、裏表紙にも「水の都ひろしま」のロゴマークがあり、色々なロゴマークがあるのは別に良いが、「ひろしま水辺の情報局」というFacebookのロゴマークも「水の都ひろしま」のロゴマークと違う。このFacebookは「いいね」の数が0のことが多く、「水の都」で検索しても出てこない。情報を発信するというのは、ある程度拡散して、認知されるということが最大の目的なので、様々なロゴマークを使うというのは得策なのかという疑問があり、また、どこにも水の都ひろしま推進協議会という存在が出てこない。水の都ひろしま推進協議会でつくったのは、このロゴマークと「ひろしま水辺の情報局」というFacebookだけという認識で良いか。

《事務局》

「Dive! Hiroshima」については、広島県と広島市が共同で運営しているホームページ、「瀬戸内 Finder」については、せとうちDMOが運営しているホームページ、「ひろたび」については、広島市の Instagram で、それぞれのロゴマークを掲載しているものである。水の都ひろしま推進協議会が使用しているのは裏表紙ロゴマークで、運営しているのは「ひろしま水辺の情報局」である。

《市川委員》

この Facebook やロゴマークを見ても水の都ひろしま推進協議会が運営している、使用しているということが、わからない。この Facebook にこのロゴマークを使い、名前も「水の都ひろしま」にすれば良いと思う。この計画についてはこのままでも良い。

《事務局》

Facebook については、検討する。

《岡村委員》

28 ページに位置図が示されていて、水上交通で「ひろしま世界遺産航路」などが記載されていて、宇品から江田島の航路などのいわゆる生活交通はこの計画の対象としないということが良いか。

また、13 ページの「ごみのない水辺づくり」や、14 ページの「水環境の改善等」については、上流域との関係もあり、この計画の対象エリアだけを綺麗にすればいいというものではない、上流域の方々にも連携という言い方が良いかわからないが、この計画を理解してもらうことが大事だと思う。計画に盛り込むかどうかは別にして、これらを推進していくためには、このような視点もいると思う。

《市川委員》

太田川流域という視点を入れて流域連携が良いのではないかと。水辺をつくる地域ネットワークづくりなどで、盛り込めば良いと思う。

《鈴木委員》

内水面漁協太田川水系振興協議会を1年に1回行っており、吉和から広島市内水面漁業組合までの8漁協集まって、ごみをどうするかなどの話し合いを行っている。その協議会には太田川河川事務所も広島県も広島市も参加している。

《山本副会長》

鈴木委員の言ったとおり、太田川の源は吉和であり、103キロメートル下って、たくさんの支流があって、海に流れている。我々はその中の一部を切り取っているが、そのことを忘れてはいけないと思うため、岡村委員の発言を理解できる。私も白島で京橋川かいわいあしがるクラブという団体が活動しているが、蚊帳の外に感じている。意識が狭義になっていると思う。

14 ページに記載のある水環境の改善等は、市の施策等が盛り込んであるというのは理解できるが、つぎはぎしているという印象を受けた。

《西名会長》

広域的な視点というものは必要だと思う。デルタの中だけでなく、その周辺と連携していくことについて、計画のどこに盛り込むのかは難しいが、考えてみてほしい。

また、18 ページでは、「エリアマネジメント団体の活動に対する支援」と記載があるが、支援というよりは協働ではないかと思う。次に23 ページでは、水辺のオープンカフェの周辺店舗との連携について記載があるが、オープンカフェ相互の連携についても推進した方が良い。最後に、岡村委員から確認があった28 ページの位置図については、ここに挙げられているものが全てという訳ではなく、計画に挙げられているものが一例として掲載されていると認識している。

《市川委員》

2、3 ページの統計データについて、令和5年度データは間に合わないのか。コロナで落ち込んだまま終わっているので、令和5年でどの程度回復したのか気になる。

《事務局》

現行計画が令和6年3月末までとなっているため、令和5年度の数値を反映させることは難しい。また、令和5年の入込観光客数の数字が出るのは来年の夏頃となっている。

《西名会長》

次期計画に掲載するか別にして、令和5年度の数値はそれなりに回復しているはずであり、知りたいところである。

《岡村委員》

推計で掲載する方法もある。もしくは、10月末時点の数値を掲載するなど、掲載方法は色々あると思う。

—今回の意見を踏まえ、事務局で計画案を修正し、次回の協議会で提示—

報告事項

京橋川オープンカフェ（右岸）の進捗状況について

《市川委員》

なぜ譲渡を受け入れなかったのか。

《中田委員》

居抜きの場合の店舗の譲渡について、水の都ひろしま推進協議会は間に入らないことになっている。金額については、当然一つの要因であると思うが、前出店者と新出店者が直接交渉をされて折り合いがつかなかったということである。

出席委員

分野	所属	役職	氏名	出欠	備考
有識者	広島大学大学院	教授	西 名 大 作	○	
	比治山大学	教授	山 田 知 子	欠	
	近畿大学	教授	市 川 尚 紀	○	
市民 団体等	ポップラ・ペア レンツ・クラブ	幹事	正 本 大	○	
	京橋川かいわい あしがるクラブ	代表	山 本 恵由美	○	
	広島市内水面漁業 協同組合	代表理事組合長	鈴 木 修 治	○	
経済・ 観光等	(一社)広島県観光 連盟	専務理事	岡 村 清	○	
	(一社)広島県生活 衛生同業組合 連合会	会長	佐々木 克己	○	
	(一社)日本旅行業 協会中四国事務局	事務局長	橋 村 秀 樹	○	
行政	国土交通省	中国地方整備局 企画部広域計画課長	佐々田 敬久	○	
		中国運輸局観光部 観光地域振興課長	柏 木 実	欠	
	広島県	土木建築局 河川課長	水 頭 頭 治	○	
	広島市	経済観光局 観光政策部長	中 田 忠	○	